

環境に溶け込むデザイン

本プロジェクトは、高尾駒木野庭園の指定管理者である株式会社たなべ物産様との連携により実現しました。東京都立大学大学院の授業であるソシオ・リビングデザイン特論の課題の成果物を庭園内に設置させて頂いております。昭和初期に建てられた駒木野庭園の伝統美溢れる環境に溶け込みつつ、現代的な輝きを放つ家具をデザインするという課題を設定しました。授業に参加した17名を4チームに分け、2026年の4月から7月にかけて課題に取り組み、たなべ物産の草間様を交えてのレビューやディテールの検証などを重ね、このほど4作品を設置する運びとなりました。来場者の方には、4グループの作品が屋外に設置が庭園内に設置されておりますので、お楽しみ頂ければと存じます。 ※ロッキングスツールは揺れますので座る際はご注意ください。



ロッキングスツール

駒木野庭園の多様な風景の中に滞在し、新たな表情を発見するためのロッキングスツールです。腰を下ろしてゆっくりと身体を揺らすと、座ったまま視線が自然に動き、これまで見過ごしていた足元の景色や遠くの風景が目に入ります。揺れ方の異なる2種類を制作し、一方は足元から遠くへ、もう一方は周囲を水平に見渡すように視線を広げます。身体の向きや視線がゆるやかに変わることによって、そばにいる人と見つけた景色を共有し、自然に言葉を交わすきっかけが生まれます。



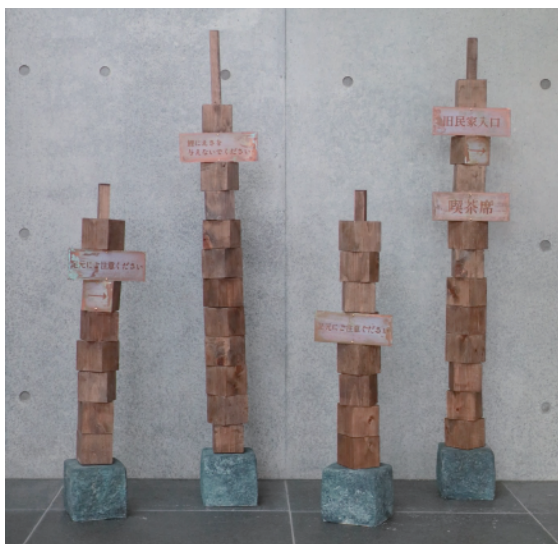
可変式盆栽棚

私たちは、庭園内に多く展示されている盆栽に着目した可変式の盆栽棚を制作しました。大きささまざまな盆栽に対応できるよう、三角形のモジュールを採用し、計4つの棚を組み合わせることで設置サイズを柔軟に変更できる構成としました。また、そのうち2つはV字の形状をしていて、他のモジュールを差し込んで使用できるほか、横向きにして看板のように活用できるなど、多様な使い方が可能なデザインを試みました。



登山者のための二人がけベンチ

高尾駒木野庭園を訪れる登山客が、靴を脱がずに屋外で気軽に休憩できる椅子を制作しました。座面はお盆を置ける広さとし、団子屋の縁台から着想を得て、屋外でお茶や軽食を楽しめる設計としています。また、背面にはリュックなどの大きな荷物を置ける荷台を設け、登山者が快適に休憩できるよう工夫しました。さらに、左右反転した椅子を組み合わせることで2人掛けとしても利用でき、自然の中で人と景色をゆったりと楽しめる場をつくりました。



ブロックサイン

木のブロックを支柱に重ねるスタック構造により、用途に合わせて高さや情報の組み合わせを柔軟に変更できるサインです。庭園内に点在する既存の案内表示に対し、共通の造形ルールを導入することで空間全体の統一を図りました。材質と色彩においては、緑青仕上げを施した銅板の表示板と色調を合わせた土台を採用し、複数のサインが設置されても庭園の景観に美しく調和する佇まいを意図しています。

指導教員

東京都立大学システムデザイン学部
インダストリアルアート学域准教授
土屋真